

# 認知症高齢者の看護について

介護老人保健施設 セージュ新ことに

土谷 良子<sup>1)</sup>

1) 准看護師

## 1. はじめに

セージュ新ことにに入職し、帰宅願望の強い認知症高齢者と関わり、生活習慣を知ること、その人らしさを知ることが必要である。

ケアプランの心理的側面の関わりは短時間であっても実践する事が安定につながることを学んだ。

ここに、その事例を報告する。

## 2. 事例紹介

・ T 氏、70 才代、男性

・ 症名： アルコール依存症 老年認知症

若い頃より酒癖が悪く、退職後にさらにエスカレートし、入退院を繰り返していた。

年冬頃より認知症害が出現した。年 6 月に妻が死亡した事もあり家族の近くでの療養を希望し当施設入所となる。

年 7 月入所時江別の娘さんの所に行くという話で当施設へ入所したため、入所時より「江別の娘の所に行くと言われてきたのに騙された」と話をし、「鍵を開けて欲しい。家へ帰るのでバス代を貸して欲しい」と職員に訴える。

認知症専門棟のため閉鎖されており、ドアを開けようとする行動が見られ思いの訴えが通らないと怒りの感情をあらわにする。又徘徊も目立った。更にストレスによると思われる顔面マヒの様な症状が出現した。

職員としての対応は、「私たちはお金を持っていないの。今日は天気が悪いから明日にし

ましよう」などの話をしていた。

訴えが続く時は、B 市の娘さんに直接電話で話し合ってもらうことで一時的であるが落ち着きを取り戻していた。妻が亡くなった事も覚えておらず、「2~3 日妻が帰ってこない」と話をしたり、女性入所者を妻と思い込んでいる。

女性入所者が話を聞かなかったりなどと、思い通りにいかない時は興奮状態になり、暴力を振るおうとする行動が見られ、女性入所者をサービスステーション内に入れたりして近づけないようにし、妻ではないことを本人に説明していた。

日ごろの習慣として、日記をつけていたことから、自分の気持ちを文章で表現できるとの考えから家族への手紙を書くことを勧めた。

手紙を書いている時その後 1~2 時間は精神的な安定が得られ、特に就寝前に書くことで良眠した。手紙は日に 2~3 回ステーションに持参し、職員に依頼されるため職員も「わかりました。出しておきますね」と安心感が得られるよう対応し、家族の面会時に手紙を渡していた。

畑仕事が好きであるとのことで園芸への参加を促したり他のゲーム（風船バレーなど）趣味活動（陶芸など）への声掛けをした<sup>1)</sup>。

徐々に笑顔も見られるようになり、参加時のお話を楽しそうにするなど一時的ではあったが表情も穏やかとなった。

パーキンソン症状の様な歩行状態のため歩

行が不安定で、向精神薬も内服していたことも一因と考えられるが、自分の思いが通らな  
いと小走り状態が悪化し転倒することがあ  
った。帰宅願望が増大している時やイライラし  
た表情の時など、お茶を勧めたりレクリエー  
ションへの参加を促すなど気分の転換が出来  
るよう声掛けを行った。

向精神薬（セロクエル、メレリル）による  
嚥下状態、ADLや意識の低下などの状態観  
察を行った。

### 3．ケアプランの実際

(1)「鍵を開けて欲しい」との要望あり。

サービス内容：

- ・本人の話を、ゆっくり傾聴することに努め  
る。
- ・その都度説明に努める。
- ・チェストの鍵を開放します。
- ・着替え1組を収納することで、安心感が得  
られた。
- ・日記をつけていたこともあり、家族への手  
紙など書き物を落ち着いて行なえる環境を  
作ります。
- ・園芸や体操・ゲームや趣味活動への声掛けを  
し、参加を促します。

(2) 向精神薬の服用も考えられるが、歩行  
状態が不安定で転倒する危険性がある。

サービス内容：

- ・歩行状態の観察を行ないます。
- ・歩行状態が悪い際は付き添います。
- ・靴をきちんとはけているか確認します。
- ・向精神薬による、嚥下状態、ADLや意識  
の低下などの状態観察を行ないます。

### 4．結果

手紙を書き職員に預けることにより、徐々  
に安定した精神状態を保つことが出来るよう  
になった。

園芸などの参加後は笑顔も見られ、職員と  
の会話も増え、落ち着いてお茶を飲んだり本

を読んだりと一時的ではあるが精神的にも落  
ち着いている。

チェストの鍵を開放することで安心感があ  
り、着替えを出したりしまう事で精神的安定  
が図れた。

### 5．考察

入所時、「だまされて連れて来られた」との  
言葉から当施設への入所は顔面マヒの様な  
症状が出現したことから本人にとってかな  
りのストレスだったと思われる。「家に帰りた  
い」というおmoiを手紙に託すことで短時間  
であるが気持ちが集中し、又思いが文字によ  
り表出されることにより一時的ではあるが精  
神的な安定が得られたと思われる。家族の面  
会時手紙のことが話題となり、手紙を職員に  
託すことへの安心感にも繋がった。

帰宅願望が増大し認知症専門棟の「鍵を開  
けてほしい」との訴えに対し、その時々  
の状態に応じ、職員の返答が異なることで職員  
への不信感を抱かせる場面もあり、本人の記  
憶の状況を性格に評価した上での統一した  
対応が必要だった。好きな園芸に参加する  
ことで野菜を手にとったり口に入れ、外の  
空気や日差しを浴びることにより生活に刺  
激を受け生き生きした表情を取り戻して  
いた。自然や生活に直結した関わりの大切  
さを感じた。

### 6．おわりに

認知症高齢者の自宅での生活習慣を知る  
ことは、われわれ看護者にとって大切な  
ことである<sup>2)</sup>。細部にわたり情報収集、個  
々に合ったケアプランを立て実行する  
ことで、認知症高齢者が自宅で生活  
していた時のように安定した精神状態  
で日常生活を送れるように看護を行  
っていきたい。

### 文 献

- 1) 太田耕平：幼児から高齢者までの心の発  
達 十段階心理療法 第10版。札幌太田病

院，札幌，2004

2) 加藤伸司：認知症になるとなぜ「不可解な行動」をとるのか．河出書房新社，東京，pp18-20，pp25-35，2005